

電気火災に注意しましょう

私たちの生活に欠かせない電気も使い方を誤ると火災につながります。電気の使い方や電気火災の内容を理解して安全に使いましょう。

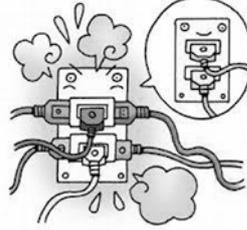
主な電気火災の原因

●過電流（許容電流に注意）

コンセントや延長コード（テーパータップ）は定格容量（許容電流）が決まっています。

（一般的には15A・1500W）

たこ足配線などにより定格容量を超えて一度に多くの電気器具を使用し続けると発熱して出火する恐れがあります。コンセントへの差込数が少なくても定格容量を超えると危険です。



【例】電子レンジ（1300W）とオーブントースター（700W）を同時に使用すると2000Wになり、容量を超えます。

●トラッキング

（コンセントのほこりや湿気）に注意

長期間、プラグをコンセントに差し込んだ状態で、ほこりや湿気がたまったまま放置しておくことでトラッキング現象が起こり、出火する恐れ

ほこりを溜めたまましていると発熱し発火する場合があります。



があります。

プラグは定期的に乾いた布などで掃除しましょう。

また、プラグに水がかかったりしないように気をつけましょう。

【トラッキング現象】

プラグとコンセントの間にたまったほこりに湿気や水分がかかると、小さな火花放電がくり返され、絶縁物（プラグやコンセントのプラスチック部分）が炭化して電気の通り道（トラッキング）ができ、大電流が流れて出火する恐れがあります。

●接触部加熱

（コンセントの緩みやプラグのぐらつきに注意）

配線または電気器具の接続部がゆるむと接触抵抗が増加することにより発熱し出火する恐れがあります。また、プラグの差込が不十分な場合にもプラグが外れかけて接触抵抗が増加し発熱する恐れがあるため、プラグはしっかりとコンセントに差し込みましょう。

【例】

コンセントの差し込み口にゆるみがある。挿し込んだプラグがぐらつく。



●半断線

（コードのひっぱり、折れ、挟み込み）に注意

コードや配線がひっぱられたり、折れたり、踏まれたり、挟まれたりすることにより、配線の何割かが切断状態（半断線）になり通せる電気の容量が低下し、その部分が発熱し出火する恐れがあります。



【例】配線が家具に挟まれたり、釘などで配線を強く固定したりしたことにより配線が一部損傷して出火する。

●コードを束ねること等による過熱（束ねたり、巻くと熱がたまるので注意）

コードを束ねたままや、じゅうたん等の下に敷いた状態で使用するするとコードの熱の放散が悪くなり、過熱して出火する恐れがあります。

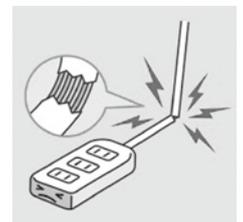


コードリールについては巻き取った部分を残さず全て出し切った状態で使用してください。

●短絡（ショート）

（配線の劣化や傷に注意）電気コードの配線が劣化したり傷が

ついたりして配線の両極（+と-）が直接し電氣的に結ばれてしまうと短絡（ショート）を起こして出火することがあります。



【配線の劣化の原因】

外部からの影響（折れ、傷つきなど）、熱劣化（過電流などで配線の許容温度以上の高温状態が続き劣化する）、経年劣化（長年の使用で劣化する）など。

●素人工事による出火（電気工事は専門業者に任せましょう）

素人配線工事は絶対にやめましょう。配線の接続不良（接続がゆるい、誤接続する）などにより出火する恐れがあります。

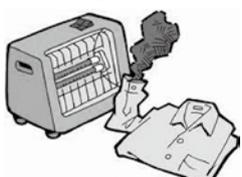
電気機器の不適切な

使用による火災事例

●電気ストーブに燃えやすいものが接触して出火する。

●電子レンジの誤使用など。

レトルト食品などをアルミ製の袋ごと入れて調理してしまい出火したり、レンジ内の汚れから出火したりする事例が発生しています。



問

役場総務課 TEL 82-1111

